

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



コロナ禍でも蔚県郷土樹木園の樹木は順調に育っています。2022年6月撮影

Contents

- 第28回総会の報告 P 2
- 夏季寄付のお願い P 2
- 第28回総会記念講演要旨 P 4～P 6
- GEN なんでも勉強会オンライン 参加者募集 ... P 6
- 芦生の森合宿 東北海岸林再生活動 参加者募集 P 6



GEN 公式サイトリンク

2022.7

206

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク

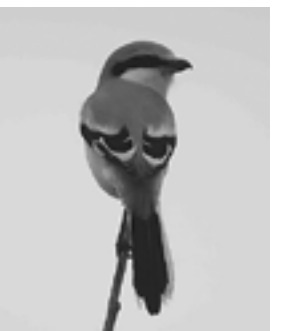


新作公開中
YouTube GEN チャンネル

GEN チャンネル # 17 「多彩な専門家の協力」を新たにアップしましたのでぜひご覧ください。5月なんでも勉強会オンライン「和泉葛城山のブナ林を知っていますか？希少な太平洋型ブナ林の生態と保護増殖」、GEN 総会記念講演「地域の多様性から考える SDGs・ポスト SDGs 時代の環境共生」、7月なんでも勉強会オンライン「GEN の活動と山の応答ー中国 黄土高原を見てー」もアップしていますのでぜひご覧ください。GEN チャンネルは右のQRコードよりお入りいただくか、YouTube のトップページから「緑の地球ネットワーク」で検索するとできます。



と含まれることになる。観察者の数の増加と撮影機材・技術の進歩で2000年の第6版に比べて約90種類増えている。オオカラモズも日本では珍しい確認した120種のうち、この目録に掲載されていない種はヨーロッパアマツバメ、コウライバト、チャイロツバメ、ダルマエナガなど9種類である。日本での出現は極めて稀、あるいはまず見ることはないだろう、とされる鳥は（私の主観から）35種で小鳥類に多く、日本の鳥図鑑に「極めて稀」と書かれた種の多くはこれに入っている。水域・湿地性の鳥で渡りをするものは日本との共通種が多い。コロナのためにその後の調査に行けないのは残念である。



蔚県郷土樹木園と蔚県の野鳥

中国にツアーを派遣できない状況が2年以上続き、現地のようなすが今どうなっているのか気になっている方も多いかと思います。蔚県壺流河国家湿地公園の責任者が6月の蔚県郷土樹木園で順調に育っている樹木の写真を送ってくれたのでご紹介します。蔚県郷土樹木園は蔚州古城のすぐ近く、壺流河湿地公園内にあり、小五台山、飛狐峪などから導入した植物と、当地で以前から植えられてきた樹木が植えられています。また、野鳥調査にご協力いただいている高田直俊先生に日本では希少な蔚県の野鳥について教えていただきました。



日本ではめずらしい蔚県の鳥たち

高田 直俊さん (GEN 会員)

蔚県は南北の山脈の間の盆地で、水神堂という湧水池を源流に持つ壺流河が中央を流れる。雨量の少ない土地柄のため、流れは小川程度で、冬の乾季の川の周辺は炭酸カルシウムが析出して雪が降ったように白くなるので、耕作にはむかない放牧地と湿地が広がる。流れの途中には大阪の久米田池のような平地に盛り土堤防のダム湖が2つあり、多くの水鳥が集まるが、厳寒期に



ダルマエナガ (撮影：大西敏一)

は凍結して去ってしまう。鳥の調査は4・8月の予備調査に続いて、繁殖期の6月、水域凍結前の11月に壺流河に沿って行い、出現した鳥のリストを作った。確認した鳥は120種で、そのうちの水域・湿地に関わる鳥は45種で、主なものはガン・カモ類21種、シギ・チドリ類13種、サギ類8種、カイツブリ、クイナ類などの種で、クロヅルとナベコウも現れた。猛禽類は日本で見ることが少ないワキスジハヤブサ、アカアシチョウゲンボウなど8種である。

2012年に日本鳥類目録改訂第7版に「日本の鳥」633種が発表されている。「日本の鳥」とは国内で存在・飛来が明確に確認された種を指し、北から南に渡る途中やその逆の経路で、間違えて日本に迷行するものも度重なる

とその承認がおこなわれました。岡和希さん、阿部路子さんが世話人を退任し、小倉亜紗美さん、弘世裕一朗さん、櫻谷し乃さんが世話人に就任しました。

【懇親会】
総会終了後、同会場にて懇親会をおこないました。21名が参加しました。3年ぶりの懇親会を楽しみました。



入下さい。
③銀行振込による寄付
下記口座へ振込をお願いします。振込手数料はご負担ください。

三菱UFJ銀行 阪急梅田北支店 普通 5284852 緑の地球ネットワーク 連絡先、寄付の用途（緑化基金、運営資金、おまかせ寄付）をGENまでお知らせください。

みなさまのご協力をお願いします。

GEN のメールマガジン 再起動します！

1999年にスタートした「黄土高原だより」は、会員のみなさまだけでなく、これまでGENの活動にご協力いただいた多くの個人や団体の方に向け、第550号まで配信を続けることができました。登録者数は3000名近くに達し、第200号までの内容は『ぼくらの村にアンズが実った』として出版することができました。しばらく配信をお休みしていましたが、創立30年を迎えた企画として若手の世話人から提案があり、「緑の地球マガジン」として本年7月から再起動させることになりました。

執筆陣には、高見副代表だけでなく、緑化に関する研究や活動に取り組む若手世話人も数名加わります。新しいメールマガへのご登録をよろしくお願いします。転送も大歓迎。右のQRコードからご登録いただけます。



緑の地球ネットワーク 第28回総会の報告



6月11日(土)、緑の地球ネットワーク第28回総会が開催されました。会場は大阪産業創造館5階研修室A・Bと、オンラインを併用して開催しました。総会に先立ち、原裕太さんによる記念講演がおこなわれました(講演要旨

はP4～P6に掲載)。会員303名(団体含む)のうち、会場出席24名、オンライン出席12名、書面または電磁的方法による決議への参加111名、委任状提出39名、合計186名で総会が成立しました。

【議事】
2021年度事業報告、決算報告・監査報告とその承認、2022年度事業計画と予算の提案とその承認、新役員の選出

夏季寄付のお願い

GENの活動の柱である黄土高原における緑化協力活動ですが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の中でも、現地カウンターパートの努力で着実に進んでいます。一方、黄土高原へのスタディツアーの派遣は引き続き困難です。また、中国に対する国内の雰囲気もあり良くありません。このような厳しい状況の中、私たちの活動をなんとか継続できたのは、みなさまからの会費や寄付金が支えとなったからです。深く感謝いたします。

GENの世話人会には、昨年からは若手の世話人が数名加わり、コロナ禍でもできること、今後のGENの役割はなんだろう、と頭をひねりつつ新たな活動に取り組んでいるところです。本年度は、国内でのスタディツアーの実施や、GENなんでも勉強会の月次開催、YouTube「GENチャンネル」の配信などに取り組むつつ、現在直面する地球環境問題に「緑化」の観点から貢献するための新たな企画の準備をしています。引き続きみなさまにもできる範囲でご協力いただけるとうれしいです。

GENは認定NPO法人ですので、寄付をいただいた場合には、寄付をされた個人、団体の方に、所得控除、税額控除、相続税の課税対象からの除外、損金算入などが認められます。また、大阪府民や大阪市民の方には個人住民税

の控除もあります。詳しくはGENホームページの右上にある「入会・寄付」からご確認ください。

相続または遺贈による寄付をお考えの方は、お手数ですが、事前に事務局までご一報いただくと助かります。



【寄付の方法】

- ①クレジットカードでの寄付
HP「入会・寄付」のページから
- 緑化基金：苗木代や労賃など、緑化協力プロジェクトの費用です。20%を事務経費にあてます。
- 運営資金：事務所費、人件費など会の運営費にあてます。
- 東北の海岸林再生事業：海岸林再生プロジェクト費やツアー費用の一部にあてます。
- おまかせ寄付：用途不指定のご寄付です。その時どきで最も必要とされる部分につかわせていただきます。
- 継続寄付：毎月一定額を自動引き落としでご寄付いただけます。

②郵便振替による寄付
同封の郵便振替用紙をご利用ください。発送作業の都合上、一律に同封しますが、最近ご協力いただいた方には重ねてのお願いではありません。ご連絡先、寄付の用途（緑化基金、運営資金、東北海岸林再生、おまかせ寄付）をご記

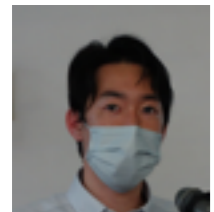


第28回総会記念講演要旨
地域の多様性から考える
SDGs・ポストSDGs時代の環境共生

原裕太さん（東北大学災害科学国際研究所 助教）

総会に先立ち、記念講演をおこないました。今回は東北大学災害科学国際研究所助教の原裕太さんにお話しいただきました（文責＝編集部）。講演部分はYouTubeで公開しています。3ページにあるQRコードよりアクセスください。GEN会員はホームページの「会員さま限定ページ」で質疑応答までご覧いただけます。

●現代社会は自然環境と調和しているか？



私は地理学を専門に研究しています。地理学には自然科学、社会科学、人文学それぞれの側面があり、他分野とも関わりが強い研究分野です。今日はそういう視点からお話ししたいと思います。

現代社会はどう自然環境と共生していけばよいか、この問いはGENのこれまでの歩みとこれからを考えるうえでも重要なキーワードです。地球上には大気（気圏）、海洋（水圏）、陸域（地圏）、生物圏、そして人間圏の5つの世界があり、人間圏と他の4圏との調和を考えなければならぬという問題意識をまず共有したいと思います。

その中で、プラネタリーバウンダリー（地球の限界）という考え方があります。とくに生態系の破壊と気候変動は非常に重要な課題となっています。まず気候変動ですが、人間の活動に起因していることは疑う余地がないと指摘されています。その影響は多岐にわたり、急激な気温の上昇と海洋の酸性化が、サンゴ礁環境や、漁業、農業、自然災害、健康等にすでに悪影響を及ぼしています。温室効果ガスの排出規制等の緩和策、変化する気候の影響を踏まえて被害を軽減しようとする適応策の両方が進められていますが、実効性のある対策をするのは非常に大変です。各国政府が温室効果ガス排出削減に取り組んでいますが、工業化前からの気温上昇を2度、または1.5度に抑えるためにはさらに努力をする必要があります。

また、地球史上最悪規模の生命の絶滅という問題があります。IPBES（生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム）の2019年のレポートによると、ここ200年で生物の絶滅の割合が急激に高まっています。生息

地も脅かされ、生息地の再生なしに今後数十年で絶滅する可能性がある種が相当数あると言われてしています。

生態系がなぜ重要かという、一つは色々な種がいると生命の絶滅リスクの分散になります。また多様な種や遺伝子がそれぞれの場所で様々な役割を担っています。私たちに多様なサービス（生態系サービス）を提供してくれていて、人類の暮らしに欠かせません。しかし、菌類や線虫、昆虫等はまだまだ知られていない種の方が多いと考えられていて、わからないものを失っている危険性、危険性自体も正確にわからないまま変化させてしまっているという問題があります。さらに、COVID-19のような人獣共通感染症の多くが野生動物由来といわれていて、大きな原因として生態系管理の問題が指摘されています。

防災分野ではEco-DRR（生態系を活用した防災・減災）が非常に重要なキーワードになっています。人工構造物が優れている点はもちろんありますが、生態系は環境負荷の回避や不確実性にうまく対応する機能を持っていて、自然災害を緩和する有効な手段です。2004年のスマトラ島沖地震では、マングローブ林や砂丘が保全されていた地域と、開発によりそれらが失われていた地域で、津波被害に大きな差がみられました。それをきっかけに、防災分野でも生態系を理解する必要がありますと考えられるようになりました。他にも、とくに中国やアメリカの過去に開発された場所の森林再生が、CO₂吸収を通じて気候変動緩和に貢献していると指摘する研究もあります。

以上は近年「自然に根差した社会課題の解決策（NbS：Nature-based Solutions）」という言葉でも表されます。気候変動、自然災害、感染症等の問題を考えたとき、生態系を理解し、うまく付き合っていくことが重要だということが、

ようやく包括的に考えられるようになってきました。しかし依然として十分に理解が広がっているとはいえません。気候変動対策と比べて必要な資金が集まっていないのが国際的な課題です。生物多様性条約の「愛知目標」は、生態系を守るための重要な国際協定でしたが、20のターゲットのうち、残念ながら完全に達成できたものがなかったというのが事後評価で、post-2020の新しいターゲットの策定が進んでいる状況です。

●課題は相互に関係している

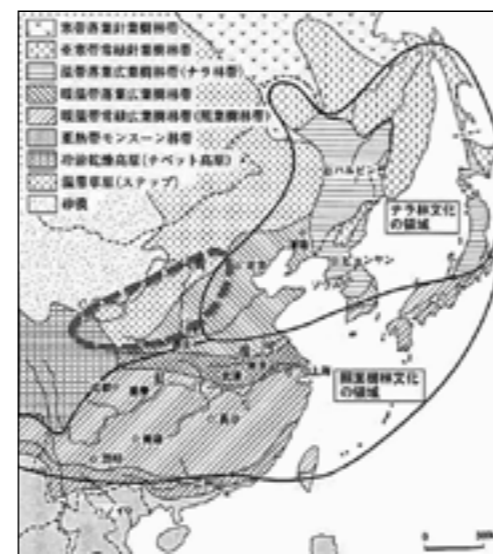
気候変動対策、生態系保全はどちらも大事ですが、再生可能エネルギーをどう増やすかは生態系保全とトレードオフの問題になりつつあります。砂漠や農山村等にメガソーラーを設置しようという計画に対しては、新たな生態系の破壊に繋がるのではないかと懸念があり、私たちが地球環境を守りながら生活を維持するのは大変難しい問題です。他にも、自然保護区を設置したことで伝統的な暮らしを営む先住民の生活が規制され、住む場所を追われた人々が都市社会に強制的に編入されて貧困や格差問題に繋がっています。2017年、女性の地位の低さや意図しない妊娠が世界人口の急増に大きな影響を及ぼし、人類の環境負荷に繋がってきたと指摘する論文が、雑誌Scienceに発表されました。WWFは愛知目標後の生物多様性の国際協定にジェンダー平等の視点が反映されるべきだと指摘しています。

近代科学は分野を細分化して専門性を高めていく方向に進んできましたが、そうすると研究対象が限られ、思わぬ繋がりを知ることが難しくなります。場合によっては誤った解決策を提示することにもなります。専門性は大事ですが、各課題を関連づける視点や枠組みがなく、それが各地域の課題解決を遅らせているという指摘がありました。それを何とかしようと生まれたのがMDGsやSDGsです。SDGsには主文に当たる「2030アジェンダ」があり、その冒頭で「各Goalは統合され不可分なもの」と書かれています。17番目のGoalには、他と毛色の違う「パートナーシップで目標を達成しよう」があります。これは専門性が高まるほど総合的対応が難しくなるため、分野や業種を越えて意思疎通を図り、横のつなが

りを大事しようという重要なメッセージです。

●環境共生とは人間の問題であり、科学の問題でもある

自然環境との共生には人文学や社会科学の知見も非常に重要です。アフリカのマライでは国立公園を作ったことで、そこで暮らしていた人々の伝統的な知恵が失われ、移住者が増え、略奪が増加して自然破壊が起きました。こういう例はたくさんあり、西洋の排他的で人間と自然を対立的に捉える「保護」の概念の限界が指摘されています。また「コモンズの悲劇」という有名な理論にも課題があります。誰でも自由に使える場所があると、人々がそこで自分の利益を最大化しようと利用し、結果として土地が荒廃して全員が被害を受けてしまう。だから誰でも使える土地は荒廃しやすいという理論です。私有化を進めれば環境破壊を防げるという考えの下、過去に様々な国際機関が開発支援をしてきましたが、その場所での慣習や伝統的な知恵を無視した技術の導入、具体的には放牧地の私有化や商業放牧の推進、定住化を実施した結果、不公平や軋轢を生んでしまい、結果的に放牧地がさらに劣化したり、食料供給の不安定化が生じたりといった失敗が起きました。ソ連や中国の計画経済でも少数民族の定住化が問題を生ましました。これらは地域に対する浅い、または誤った理解が引き起こした典型的な例です。そのため、最近では先住民、地域コミュニティに生物多様性の国際的な議論



佐藤洋一郎監修 2008. 『ユーラシア農耕史1：モンスーン農耕圏の人びとと植物』臨川書店 p251 植生の分布はおもに「中国植被」(1980)による

に参加してもらい、彼らからも学ぼうという考え方が生まれています。砂漠化対策でもその場所で長く暮らしてきた人々の経験や技術をうまく活かし、コミュニティに密着した資源管理をする必要があるという議論が行われています。

●地域多様性への着目とアジアの多様性

そのため生物多様性はもちろんですが、生物圏と人間圏を支える地球科学的な「ジオ多様性（Geo-diversity）」、そして各地の固有の文化をグローバル化から守る「文化多様性（Cultural diversity）」が形づくる「地域多様性」を理解することが大切です。中でも、生物と文化の多様性が相互に影響し合う部分を「生物文化多様性（Biocultural diversity）」といい、これだけで一つの国際会議が開かれるほどのホットトピックです。住民生活への浅い理解が、不適切な環境保護や開発政策、技術移転に繋がるので、文化多様性も含めて地域の多様性を多角的に理解して政策、対策を考える必要があるのです。私たちが暮らすアジアは、世界でも地域多様性の豊かな地域です。照葉樹林の文化があり、落葉広葉樹林の豊かな狩猟・漁労・採集の文化があり、また草原の文化、チベット等の高標高地域の文化等、様々な人々が大地や生物の特性に適応した暮らしを営んでいます。そのため様々な知恵が各地に存在しています。耕作ができないほど雨の少ない土地で、遊牧民は季節によって家畜を移動させ草原植生の生産力を維持し、食料を生産・保存し、自然災害を回避しており、これは環境にあった暮らしの一つです。黄土高原は様々な文化が交錯している場所です。ここにも貴重な知恵がたくさんあり、干ばつの救済作物になるナツメ、少ない水・短い期間で栽培できるアワ等の雑穀の栽培が挙げられます。横穴式住居のヤオトンは、寒暖差の大きなこの地域で夏涼しく冬暖かい住環境を提供し、また雨と木材が少なくても建てられる「風土建築」です。また、東シベリアから中国東北部の寒冷地では永久凍土のおかげで降水量が少ないにも関わらず森林が存在しています。遊牧民や狩猟採集民の自然信仰が野放図な環境破壊を抑制してきましたが、一度開発されてしまうと永久凍土が破壊され、森林も回復できません。



黄土高原の横穴住居ヤオトン 陝西省榆林市にて2015年講演者撮影

言語も文化を支えるうえで重要な役割を果たしています。たとえばチベット語にはヤクの糞を表す単語が非常にたくさんあり、彼らがどのような生活をしているか、価値観を持っているかが反映されています。日本語や英語ではヤクの糞としか表せません。ローカルな言語が失われると彼らの文化も失われてしまいます。

サステイナブル・デベロップメントの考え方はヒンドゥー教や仏教を含め、アジアの価値観とも親和性があります。Sustainableは「持続可能な」と訳されますが、神道の「常若（とこわか）」という言葉で表せるかもしれません。伊勢神宮の式年遷宮のように、使いすぎない程度に生態系を利用し、かつ技術を継承し、作り替えながら継続する営みを表した言葉です。Developmentは「開発」と訳されますが、元々は見えないものを引き出すという意味があります。地域の魅力や特性を深く理解し引き出すのが本来のdevelopmentだと考えることができます。地域に息づく在来知、生活知から科学者が学ぶものは多く、科学知と補い合い融合することで、初めて自然環境との共生が実現するのではないのでしょうか。こうした地域の知恵をうまく活用して市民参加型で研究や課題解決を進めることが世界の潮流になってきています。ただし課題もあり、参加者の幅を広げると意見をまとめるのが難しかったり、植民地時代に遡る歴史的背景があったり、実際やるとなると難しいものです。NGOと住民、住民同士が対立するケースもあります。

●GENの活動の評価とこれから

以上を踏まえてGENの活動をどう評価できるか考えてみます。まず在来樹種



を用いて植林をしてきました。多様な分野の専門家が協力し、科学知と現地の在来知を融合させてきました。小学校付属果樹園では経済的利益と燃料資源を生み出し、貧困地域の教育支援と自然林の再生に繋がりました。課題間の関係に着目し、問題の根源的なところにアプローチし、住民と協働して進める取組みは先駆的だったといえます。対話が大事だと言うのは簡単ですが、実際に対話をして理解を得て一緒にやっていくのは簡単なこ

とではありません。私も黄土高原で研究をしていますが、現地で活動するのは非常に大変です。しかも日中戦争の激戦地で住民の理解を得て30年間続けてきたのはとても価値のあることで、世界でも稀な成功例といえるでしょう。

現在は会員の高齢化という大きな課題に対し、20～30代の若い世代が運営に参加する等、より多様な意見を取入れる努力を続けています。

一方で活動がまだまだ世間に知られて

いないという課題があります。先日私が参加した国連の国際会議では、様々なNGOや団体がブースを出して活動を紹介していました。GENもさらに発信力をつけていく必要があると感じています。大きな世界のビジョンと地域の多様な未来のかたちの両方に貢献できるベースがGENの活動にはあると思います。今後の世界の地域開発や環境保全をリードする存在になれると思いますし、わたしも貢献できればと考えています。

参加者募集

GEN なんでも勉強会オンライン

京大芦生研究林におけるニホンジカによる生態系改変と保全・回復への試み



京大芦生研究林は4,200haにおよぶ近畿地方ではとても貴重なアシウスギとブナを中心とした原生的

講師の石原正恵さん。多々の研究がおこなわれていますが、近年シカの食害による植生の衰退が大きな問題となっています。今回、フィールドワークと広域多地点データ解析を通じて研究を続けておられる石原正恵さんにお話しいただきます。

○日時：2022年8月27日（土）13時～15時ごろ
○手段：ウェブ会議システム Zoom

○講師：石原正恵さん（京都大学フィールド科学教育研究センター准教授）

○参加費：無料（定員100名）

○申込み：以下のいずれかの方法でお申込みください。

①8月25日までに件名を「8月オンライン勉強会参加希望」とし、本文にお名前を記入してGEN (gen@gen-tree.org) までメールを送る。

②8月25日までにGENホームページの「参加する」ページ (https://gen-tree.org/participate/) より申込み。

③8月26日14時までにイベント管理サイト Peatix (https://genandemo13.peatix.com/) より申込み。

参加者募集

東北海岸林再生活動

3年ぶりに東北海岸林再生活動のツアーをおこないます。植樹はすべて終了したため今回は草取り作業と、工藤寛之さん（まちかど公共研究所主宰）の案内で被災地見学を予定しています。

○日程：9月3日（土）昼ごろ仙台空港集合～9月4日（日）夕方解散

○参加費：14,900円（ホテル、レンタカー代、保険料を含む、昼食、夕食代は含みません）

○定員：8名

○内容：ゆりりん愛護会の植樹現場視察・作業、被災地見学

○申込み・問合せ：8月9日（火）までにGENまで。GENホームページの「参加する」ページ (https://gen-tree.org/participate/) からもお申込みいただけます。

9月のGENなんでも勉強会オンライン

「里山の保全活動-吹田市紫金山公園と東お多福山草原の保全-」

○日時：9月29日（木）19時～20時30分ごろ

○講師：武田義明さん（神戸大学名誉教授・紫金山みどりの会 会長 東お多福山草原保全・再生研究会 会長）

○参加費：無料（定員100名）

○手段：ウェブ会議システム Zoom

詳細は次号でお伝えします。

駅集合、10月23日（日）夕方JR「園部」駅解散。

○場所：芦生の森 京大芦生研究林（京都府南丹市美山町）

○内容：1日目：芦生の森ガイドツアー参加、芦生山の家宿泊／2日目：シカ保護柵設置作業

○費用：21,800円（宿泊費、食費、保険料を含む。園部駅までの交通費は含みません。）

○定員：14名（最少催行人員7名）

○申込み・問合せ：9月21日（水）までにGENまで。GENホームページの「参加する」ページ (https://gen-tree.org/participate/) からもお申込みいただけます。

※小雨決行。大雨の場合は中止します。

参加者募集

GEN 自然と親しむ会 芦生の森合宿

8月のGENなんでも勉強会で京大芦生研究林のお話をさせていただきますが、やっぱり現地に足を運んで実際のお話をしたいという方、芦生の森合宿に参加しませんか？

関西屈指の自然林、芦生の森を訪れて秋の自然観察を楽しみましょう。

○日程：10月22日（土）朝JR「園部」



報告

ブナの森とわたし

伊賀 三江さん（千葉県）

5月31日、GENなんでも勉強会オンライン「和泉葛城山のブナ林を知っていますか？—希少な太平洋型ブナ林の生態と保護増殖—」をおこない、35名が参加しました。講演部分はYouTubeで公開しているほか、GEN会員の方はホームページの「会員さま限定ページ」で質疑応答部分までご覧いただけますので、ぜひご覧ください。GEN公式YouTubeは3ページのQRコードよりアクセスいただけます。

以前泉州に住んだことがあり、家から車で1時間も走れば金剛山の麓にたどり着いたので、金剛生駒のブナの森は私の森でもあった。数こそ少ないが、胸高直径数十センチの巨木が屹立して立派だった。私は一人であたりを歩き回り、ギンリョウソウやカタクリの花の群生を見つけたりして遊んだ。

その素地があつての前中先生のお話だったので、大変面白く聞かせていただいた。ブナの実が、カシノナガキイムシにやられると、99.9%ダメになると聞いて、驚いた。自然界にはブナの実を当てにして生きている動物もいるだろうに、それでは動物が生きられないではないか。それからしばらくして乳頭温泉へ行く機会があり、ブナに出会った。乳頭温泉のブナは数は多いが

どの樹も細く、金剛生駒のブナとはまるで違っていた。地元の人に尋ねると「このブナは立派なもんだったけど、宮沢賢治が「ブナ酔を作ろう」と言って、一度全部伐ったんじゃ。その後に生えてきた樹だから、みんな小さい」と言った。それに比べれば、金剛山のブナは、数こそ少ないが誇ってもいいものだった。

近年、私はみなかみの藤原で行われている「森林塾青水」の仲間に入った。藤原で、かつての入会の森を借りて、茅場を整備をする仲間だ。その中でまた、ブナに出会った。

藤原はブナの豊富なところで、私たちはしばしば時間を作って「奥利根水源の森」へ行ったが、そこにはたくて立派なブナが見渡す限り広がっていた。

林床はクマザサやチシマザサに覆われ、私たちはネマガリタケを見つけては喜んだ。藤原では、ブナは特定の場所だけではなく、民宿の裏などにも無造作に広がっていた。朝早く、民宿の裏を散歩すると、やがてブナ林に行きつく。藤原の人はブナの実入りに敏感で、「今年の実入りが悪い」とか「豊作だ」とかを問題にした。豊作なら熊が山から下りてこないが、不作だと町へ降りてくるので、ブナの実入りは人間にとっても死活問題なのだ。

いろいろな場所でブナとはそれなりの関りを持った。今となれば、楽しいブナ探索人生でもあったと思う。



和泉葛城山のブナ林

Summer SDGs Festival for Youth に GEN が出展します

Summer SDGs Festival for Youth は高校生が地球規模の課題や、課題に対する取り組みに出会うイベントです。GENはNGOの活動紹介ブースに出展します。当日ブースを手伝っていただける方を募集します。興味のある方はGENまでご連絡ください。

○日時：8月21日（日）10時～16時（感染拡大防止のため、10時～12時、12時～14時、14時～16時の入れ替え制）

○会場：大阪 YMCA（大阪市西区土佐堀 1-5-6 大阪メトロ四つ橋線「肥後橋」駅より徒歩5分）

○参加費：無料

○主催・問合せ：（特非）関西 NGO 協議会（大阪市北区茶屋町 2-30 4階 tel. 06-6377-5144 fax. 06-6377-5148

e-mail : knc@kansaingo.net URL http://kansaingo.net/



第28回総会にお寄せいただいたメッセージの一部をご紹介します。

○世間の関心がウクライナに集中し、GENと同じNGOのベシャワール会（福岡）でも会を運営していくのが大変な様子。アフガンでは経済が混乱し、干ばつによる食糧生産が厳しいと窮状を訴えておられます。二つの団体（GEN、ベシャワール会）同じように集中して関心を持ち続けていきたいです。（YK）

○「攻められたらどうするの？」という声が強まるなか、その前に関係づくりをと思いつきながらどうやってい

たらいいのか…難しいなと考えているところにGEN総会の資料。ここに友好関係づくりの実例があるじゃないですか！しかも30年の歴史。“SDGs”とかいう前に実行していましたね。（KY）

○ここ数年ツアーが実施できず心配です。若者、壮年層らに現地の状況を知って、会の中心となって活動してほしい。ツアー参加記念の庭のアンズが食べごろです。記事はいつもしっかり読んでいますよ。（MY）

○何が起るかわからない国際情勢、地球情勢下において、地味でも継続した取り組みこそ重要だと感じています。緑化を通じて人と人が心を通わせ繋がらう、GENの活動はなおさら意義を増していると思います。（LY）

○コロナ禍も3年目に入り、オンラインでの情報発信や交流が活発になってきて、GENチャ（8ページへ続く）

(7ページから続く)ンネルなど活発になってきているので、良いところをうまく活用して新たな形を作っていけるとよいですね。(O.M)

- 満30年、誠におめでとうございます。中国の歴史を研究して旅行の経験もわりとあり、それなりに中国のことは「知ってる」つもりでしたが、20年前にたまたま高見さんの講演を聞いて、「自分が知っているのは都会のことだけで、中国の7割(当時)を占める農村のことは何も知らない」とショックを受け、「行くしかない」とツアーに飛び込み現地に行ったらまたショック。あのときの感動はいまも色あせていません。GENのますますの発展をお祈り申し上げます。(S.E)
- 今の国際情勢を見ると、民間の団体や個人の活動にこそ人類の未来が有るのかなと思ってしまいます。GENの中国での活動は、国の関係が危なくなっても、日中の人びとの心を繋ぐ一つになると期待します。中国文化を取り入れてここまでになった日本です。黄砂や大気汚染までもたらしてくれていますが。これも緑化で抑えましょう。(K.A)
- 気候変動を世界中の人びとが肌で感じるようになってきました。一人で出来る事は小さくても、地球に心地よい風が吹き、自然も人も、もっと優しくなれる未来のためにGENの活動に参加させていただこうと思います。(K.K)
- 総会がオンライン開催になったことで、昨年初めて参加させていただ

きました。大変興味深く勉強させていただきました。微力ですがこれからも会員を続け、周りにも伝えていきたいと思っています(O.M)

- コロナ禍とはいえ、オンライン勉強会など若い人たちが動いて活動しているのが見えて楽しいです。植樹ツアーもまだまだ先になりそうですが、新しい国際協力のあり方などを考える良い機会となると楽観的に考えています。(I.F)



* 当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
* 当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。
なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

南京の記憶をつなぐ2022
教科書と南京
消すことのできない
南京大虐殺の真実

- 南京大虐殺を忘れない。講演とドキュメンタリー映像を上映します。
- 日時：7月23日(土)14時～16時30分(13時30分開場)
- 会場：エルおおさか・南館5F(大阪メトロ・京阪電車「天満橋」駅下車徒歩10分)
- 内容：講演「消すことのできない南京大虐殺の真実」講師：伊賀正浩さ

ん(子どもたちに渡すな!あぶない教科書大阪の会) /ドキュメンタリー映像(25分)と戦時資料「歴史修正主義のフェイクとわたしたちのルール」解説:松岡環さん(銘心会南京、中国平和研究会代表)

- 資料代：1,000円(学生500円)
- 主催・問合せ：南京の記憶をつなぐ2022 tel.090-8125-1757

9月開講 第20期
自然環境市民大学
受講生募集

1年間、動植物について学び、生態系、自然環境保全の基礎や保全活動の実際を体験的に学習する講座です。

- 時期：2022年9月～2023年7月の全26回+オプション講座1回。原則土曜日開催。
- 定員：25名
- 受講料：60,000円(半期ごと分割払い可)
- 講師：高田直俊氏(大阪市立大学名誉教授)、夏原由博氏(名古屋大学名誉教授)ほか。
- 申込方法：氏名、性別、生年月日、住所、電話番号、ファクス番号、携帯電話を記入してファクス、電話、e-mail、HPの申込フォームからお申込みください。
- 主催・申込み先：(公社)大阪自然環境保全協会市民大学係(〒530-0041大阪市北区天神橋1-9-13ハイム天神橋202号 tel.06-6242-8720 fax.06-6881-8103 e-mail:shimin@nature.or.jp URL:http://www.nature.or.jp)